

調査速報

# 外食需要動向（2020年7月）

## 家計の実質外食支出金額は小幅な増加に留まり、回復のペースは鈍い

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2020年7月の1世帯あたり実質外食支出金額は、全国、関東地方とも3か月連続で前月の水準を上回ったものの、7月は6月に比べて小幅な増加に留まり、回復のペースは鈍い。
- 7月の外食産業売上高（名目値）は前年同月比15.0%減と、6月の同21.9%減に比べて減収率が6.9ポイント縮小した。
- 外食チェーンの客足の戻りはオフィス街や繁華街で鈍く、住宅地や郊外で先行しているようだ。背景には、コロナ禍によるリモートワークの活用や、宴会や会食の自粛の継続などがあるとみられる。

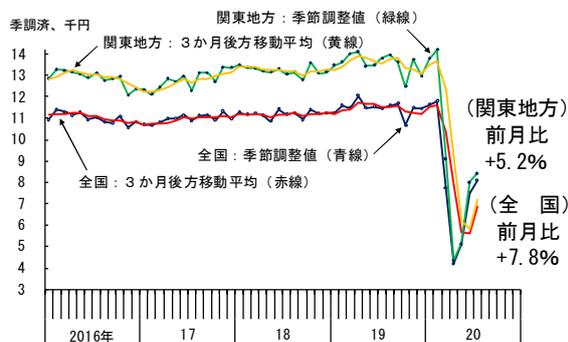
### 1. 2020年7月の家計の実質外食支出は小幅な増加に留まる

総務省「家計調査」に基づく2020年7月の1世帯あたり実質外食支出（用途別分類、2人以上の世帯、学校給食を除く、実質化および季節調整は浜銀総合研究所が実施）は、全国が前月比7.8%増（前年同月比30.2%減）、関東地方が前月比5.2%増（同29.4%減）となった（図表1）。全国、関東地方とも、3か月連続で前月の水準を上回ったものの、7月は6月に比べて回復のペースは鈍化した。7月の実質外食支出金額の水準は前年同月の70%程度であり、「緊急事態宣言」が発出された4月の落ち込みからの戻りは弱い。東京都などで感染者数が再び増加したことに加えて、長梅雨などの天候要因により、家計の外出控えが続いたことなどが影響したとみられる。

### 2. 7月の外食チェーンの減収率は6月よりも縮小

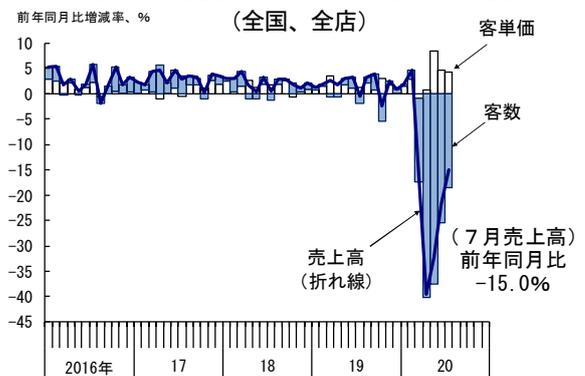
他方、一般社団法人日本フードサービス協会が発表した「外食産業市場動向調査」によると、外食チェーンの売上高の動向を示す外食産業売上高（名目値）は7月に前年同月比15.0%減となった（図表2）。減収率は6月の同21.9%減に比べて6.9ポイント縮小した。7月の客数減少率は同18.5%減と6月の同24.5%減から6.0ポイント縮小した。外食チェーンでは店内飲食の営業再開以降、徐々に顧客が戻りつつある。ただし、7月は月半ばからの感染者数の再拡大や、学校などの夏休みの短縮、長梅雨や豪雨の影響などで、客数減少率の戻りは6月（12.1ポイント縮小）よりも小さい。また、同協会によると、「住宅地に近い『郊外立地』の店舗は比較的回復の一方、『繁華街立地』の店舗は苦戦が続いている」とのことである。背景には、コロナ禍によるリモートワークの利用拡大や、会食や宴会の自粛などがあるとみられる。

図表1 家計の実質外食支出の回復ペースは鈍い  
（全国、2人以上の世帯、季調済）



注1：総務省「家計調査」の用途別分類「一般外食」。  
注2：実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。  
出所：総務省「家計調査」より浜銀総合研究所作成

図表2 外食チェーンの減収率が縮小  
（全国、全店）



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。  
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
注3：売上高、客数、客単価は、店内飲食だけでなく店外飲食を含む値。  
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

### 3. 客足の戻りはオフィス街や繁華街で鈍く、郊外や住宅街で先行しているとみられる

外食チェーンの業態別の客数をみると、パブ・居酒屋の7月の客数は前年同月比50.7%減であった（図表3）。減少率は6月の同58.7%減から8.0ポイント縮小したものの、客数の水準は前年同月の5割弱に留まり、他業態に比べて客数の戻りは鈍い（図表4）。接待を伴う飲食や大人数での宴会・会食での感染が報道されたことなどにより、同業態の利用を控える動きが続いているとみられる。同業態の主な出店地域であるオフィス街や繁華街での飲酒需要は厳しい状況にあるとみられる。

ファミリーレストランの客数は同26.1%減となり、6月の同29.4%減から減少率が3.3ポイント縮小した。客数の水準は前年同月の7割超であり、同業態の主な出店地域である郊外や住宅街などでは客足が戻りつつあると考えられる。同業態のなかでも、焼き肉ファミリーレストランの客数減少率は同7.9%減と6月の同12.5%減から4.6ポイント縮小し、前年水準の9割超の水準まで戻っている。

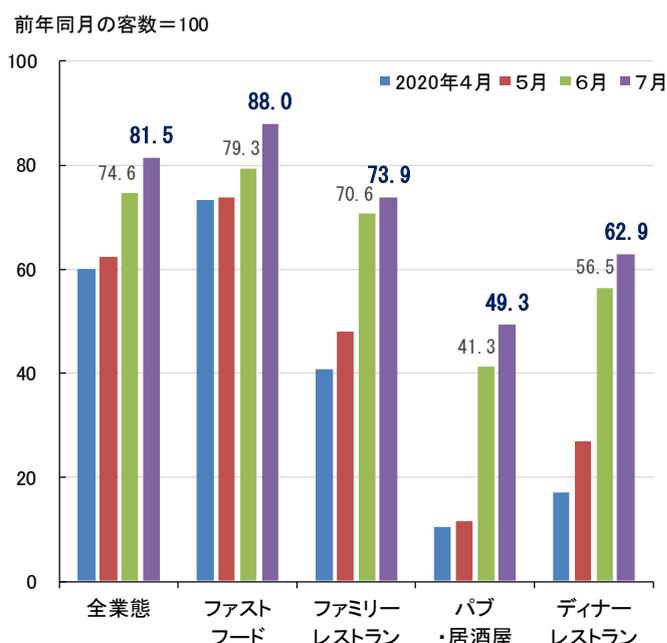
また、ファストフードの客数は同12.0%減となり、6月の同20.7%減から8.7ポイント縮小した。客数の水準は前年同月の約9割弱まで回復した。同業態はテイクアウトやデリバリーなどの店外飲食が浸透していることに加え、店内飲食の再開によって客数の戻りの動きが加速したと考えられる。

図表3 業態別の外食産業売上高  
(2020年7月、全国、全店)

業 態	(前年同月比増減率)				
	店舗数	売上高	店舗数	客 数	客単価
<b>全 体</b>	<b>37,810</b>	<b>-15.0%</b>	<b>-2.0%</b>	<b>-18.5%</b>	<b>4.4%</b>
<b>ファストフード</b>	<b>21,635</b>	<b>-3.6%</b>	<b>-1.2%</b>	<b>-12.0%</b>	<b>9.5%</b>
洋 風	6,072	5.1%	-0.2%	-10.5%	17.4%
和 風	5,151	-3.9%	0.9%	-7.4%	3.7%
麺 類	3,435	-20.2%	0.4%	-22.8%	3.4%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,312	-5.3%	-6.4%	-8.4%	3.4%
その他	2,665	-13.0%	-0.6%	-20.1%	8.9%
<b>ファミリーレストラン</b>	<b>10,456</b>	<b>-22.6%</b>	<b>-1.7%</b>	<b>-26.1%</b>	<b>4.8%</b>
洋 風	5,245	-27.5%	-2.5%	-29.1%	2.2%
和 風	2,477	-27.8%	-3.1%	-28.2%	0.5%
中 華	1,324	-11.4%	2.4%	-17.1%	7.0%
焼き肉	1,410	-4.7%	0.4%	-7.9%	3.4%
<b>パブ・居酒屋</b>	<b>2,334</b>	<b>-52.8%</b>	<b>-8.9%</b>	<b>-50.7%</b>	<b>-4.3%</b>
パブ・ビアホール	280	-65.0%	-1.1%	-58.8%	-15.1%
居酒屋	2,054	-50.0%	-9.8%	-48.2%	-3.1%
<b>ディナーレストラン</b>	<b>1,135</b>	<b>-34.5%</b>	<b>-6.4%</b>	<b>-37.1%</b>	<b>4.1%</b>
<b>喫茶</b>	<b>2,062</b>	<b>-33.2%</b>	<b>-1.5%</b>	<b>-36.4%</b>	<b>5.0%</b>
その他	188	-12.6%	4.4%	-18.9%	7.8%

注1：全店とは、既存店と新規店の合計。  
 注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
 注3：売上高、客数、客単価は、店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
 出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

図表4 業態別の客数の推移  
(前年同月の客数を100とした指数、全国、全店)



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。  
 注2：店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
 出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。